

3班の意見

A.

「全員参加」

- ・教育委員会に打診し、子どもも親も巻き込んで町全体を盛り上げる仕組みづくりが必要だと思う。子どもが中心となれば、その両親も結果的に関わることになるので、幅広い世代で盛り上がれると思う。
- ・若者にアイデアを募る。例えば、中学生室（復興推進課内）に企画をしてもらいたい。

その他

- ・仮設の人たちが集まれる場が必要。
- ・酒が飲める場が必要。
- ・何をやるにしても人手が足りない。人手が必要。
- ・従前のコミュニティの再構築。

B.

集客・呼び込み

- ・呼び込み：HPやSNS（twitterなど）を活用し、人が集まりやすい環境をつくる。
- ・定住人口を増やすために、交流館で不動産紹介、公営住宅紹介ができるようにしたい。
- ・周辺地域からも人を集めたいので、広野町やいわき地方北部などから集客できるように、循環バスがあったら利用しやすいと思う。
- ・町内のお年寄りのために、町内周回バスを整備すると利用しやすいと思う。

イベント

- ・こども園などと連携し、皆でプランター、鉢植えの共同作業を行い、継続的に関わってもらおう。
- ・従前のコミュニティの同窓会を開催したい。
- ・勉強会やセミナーを開催すれば、参加してみたい。
- ・物産展（酒、ゆずなど）を開催すれば、利用したい。
- ・展示物があった方がよいと思うので、オールドカーセンターなどに展示協力してもらいたい。
- ・町民カラオケ大会を開催したい。
- ・結婚式をあげられる施設でもあってほしい。
- ・調整池を釣り堀として活用したい。

オープニングイベント

- ・「交流館ができるまで」の過程を見せられるようにしたい。
- ・朝から夜まで開催する。
- ・想定していた活用法の全てをオープニング時に行うことで、交流館の使い方の周知をしたい。



- ・オープン目線で、「交流館ではこんなこともやっていいんだ」と思われるような活用の仕方をする。
- ・檜葉町内の企業に声をかけし、オープニングイベントに参加してもらおう。
- ・クラフト、パッチワークなどの体験教室や展示。

その他

- ・ふたば未来学園高校の部活動利用時は料金を無料にする（もしくは割引）。
- ・パフォーマンスの発表の場として活用できるようにしたい。

C.

私がやれること

- ・今まで交流館づくりに関わってきた人たちが引き続き参加して盛り上げていく。オープニングでも何か手伝ってもらおう。

誰かにやってもらいたいこと

- ・教育委員会への打診も、町民が主体となって交渉し、町とならばみらいはそれをサポートしていきたい。

第9号

発行日：平成30年3月30日
 発行者：（一社）ならはみらい



ならは交流館だより

平成30年3月24日（土）、「第9回ならは交流館お茶飲み会」が開催され、町民の皆さまにご参加いただきました。今回のお茶飲み会は、①建設中の交流館及び商業施設を見学し、イメージを膨らませ、②今の檜葉町に必要な「モノ」、「コト」の意見を述べてもらい、それをもとに交流館は何を担う施設になるべきかを話し合っていました。

※今回のお茶飲み会も、参加者からお菓子とコーヒーの差し入れをいただきました。いつもありがとうございます！

WSのプログラム

1. お茶飲み会の開会挨拶と交流館のおさらい

檜葉町より開会挨拶と交流館の概要を説明していただきました。

2. 実際に交流館・商業施設を見てみよう

みんなで建設中の交流館及び商業施設を見に行き、実際に出来上がる建物のイメージを膨らませていただきました。

3. 交流館の指定管理者からの報告

指定管理者がならはみらいに決まり、運営への想いをお伝えしました。

4. お茶飲み会（ワイワイタイム）

参加者を3班に班分けし、次の3つのテーマについて、意見を出し合いました。

A. 今の檜葉町に必要な・ほしい「モノ」、「コト」は何かを考えよう

B. 交流館でできること、したいこと、やってほしいことを考えよう。また、7月のオープンに向けて何をしたいか考えよう

C. 交流館に対してあなたは何かができるか、誰が何をするとよいか考えてみよう

5. 発表・情報共有、集合写真撮影

班ごとに話し合ったことをまとめ、発表してもらいました。最後に集合写真を撮影しました。



1 班の意見

A.

若者・子どもに対して

- ・現状は若者が檜葉町外に住んでいる。「檜葉はよいところ」と思ってもらえるようなツールを活用し、若者を呼び込みたい。
- ・外で遊んでいる子どもたちを見かけない。遊び場があるとよいと思う。
- ・親御さん（親子）とも交流する機会が必要。

檜葉町外居住者

- ・檜葉町の交流人口（Jヴィレッジ 50 万人、天神岬 30 万人）を引き込みたい。

B.

イベント

- ・移動動物園を呼び込めると子どもたちが喜びそう。うさぎやトリなどの小動物と触れ合うイベントを開催する。
- ・魚のつかみ取りのイベントは地元の子ともと都会の子ともを呼び込むことが出来そう。
- ・水遊び企画をすれば、子どもたちが喜ぶと思う。シャケ祭りでもよい。
- ・水風船合戦を毎年開催したい。
- ・1 週間限定のキッズニアを開催したい。笑みふるタウン内で開催。親御さんもついてくる。
- ・食のイベントを開催する。いくらしょうゆ漬けづくり等の加工イベントもよいか。ゆずのイベントでもよい（ゆずシャーベットなど）。
- ・「檜葉を考える会」という名目でお茶飲み会を老若男女でやりたい。
- ・ふたば未来学園高等学校の演劇部、吹奏楽部を呼ぶ。出番が終わっても残ってもらい、交流する。
- ・ペットと一緒に人も受け入れられるような、ドッグラン（手作りする）などがあるとよい。毎週日時を決めてドッグランの会場にする。

若者・子どもに対して

- ・子どもはフリー wifi に引付けられるので、設置してほしい。（ふたば未来学園高校の生徒も同様である。）
- ・バンドルームを学生に安く貸し出したらよいと思う。また、機材の貸し出しも行う。
- ・空いている公営住宅を一部屋学生の長期滞在拠点として貸し出す。
- ・若者が移住しやすいのは、大学卒業時だと思う。課題のある地域へ若者に住んでもらい、解決してもらおう。そういうプログラムをつくってみたいと思う。
- ・子育ての一補助ができる施設。



情報発信・観光など

- ・職業の情報を知れたらよい。どこの市町村へ行っても「人手が足りない」と言っている。
- ・笑みふるタウンと天神岬との連携、他施設との連携が重要。
- ・巡回バスの整備を検討する。

C.

私がやれること

- ・手づくり市（加工品、野菜など）開催。
- ・実行委員会型で住民参加。
- ・オープニングイベントセレモニー実行委員会などを発足する。

誰かにやってもらいたいこと

- ・盆踊り：ほっつあれ DE いいんかいっ?!（檜葉町の若者を中心にイベント等を行っている団体）が運営。
- ・発表の場：若者のバンド、サークル団体（フラダンス、お遊戯、日本舞踊など）
- ・地元で生産した農産物の直売コーナー：ブイチェーン
- ・まなび館で活動する団体に交流館を使ってもらおう。

2 班の意見

A.

交流の場

- ・休みの日にふらっと行ける場所が必要。
- ・喫茶店感覚で気軽に行けて、お話ができる場所が必要。
- ・待ち合わせ場所や目的がなくても行きやすい場所が必要。

町外の人とも楽しめる場所

- ・町民と町外の人との絆が深まる場所が必要。
- ・大人と子どもが交流できる場が必要。大人同士、子ども同士の友人は多いが、世代を超えた交流が少ないので、仲良くなれる場が必要。

移動手段

- ・バスやタクシーの移動手段が今よりも整備されると利用しやすい。
- ・ボランティアによる送迎が必要。まなび館では認知予防の催しが開催されるが、不参加が多い。

その他

- ・趣味が共有できる場、発表できる場。
- ・芸術に触れる場所
- ・世代に合わせた催し物。

B.

イベント・講座

- ・月に 1,2 回、みんなでハンドメイドするイベント。
- ・ハロウィンなどのイベントを開催し、子どもと大人と一緒に交流できるようにしたい。
- ・大人は昔の思い出を語れて、子どもは町の昔の話を知ることができるようにしたい。昔の遊びを学べるのもよい。
- ・過去に開催していた懐かしいものをイベント化する。「大滝神社の浜下り」など。
- ・お天気教室など、知らないことを学べる教室があれば参加したい。
- ・新聞ゲームやリーダーを探せ（リーダー探し）などの遊びのイベントがあれば参加したい。

オープニングイベント

- ・オープニングムービーをつくりたい（例、JR 九州新幹線）。
- ・ドローンを飛ばして、オープニングイベントの映像を別の場所へも中継する。震災以前に檜葉町へ住んでいた人たちに、見てもらいたい。
- ・語り部さんに来てもらい、オープニングだからこそ改めて震災の記憶を共有する。



- ・交流館が建設されていく過程を撮影し、それをムービーとして流したい。
- ・オープニング時に檜葉町の有名な本や紙芝居などの読み聞かせがあれば参加したい。
- ・スイカ割りのイベントを開催したい。
- ・オープニングに合わせて、早めの夏祭りを開催したい。
- ・地元の商店などの出展イベントを開催したい。
- ・オープニングにみんなで話して、絆を深めるイベントにもしたい。

その他

- ・知らない人とも話をして、友人を増やすことができる場所にしたい。

C.

誰かにやってもらいたいこと

- ・ボランティアスタッフ：交流館への送迎。檜葉町でボランティアをやりたい人を募集する。
- ・オープニングイベントで他地域に中継する際に、現地に行きリポートする（リポーター）。